

令和5年度 第2回

山梨県考古博物館協議会資料

(次 第)

1 開 会

2 委員紹介

3 館長あいさつ

4 議 事

(1) 令和5年度考古博物館事業実績について

(2) 令和6年度考古博物館予定事業について

(3) 考古博物館利用状況について

(4) その他

1 考古博物館来館者サービスの向上について

2 国際文化交流について

3 令和7年度特別展(案)について

5 閉 会

令和6年2月29日(木)

山梨県立考古博物館

資料目次

(1) 令和5年度 考古博物館事業実績について

1	展示活動	1～2
2	学習会・講座など	2～5
3	イベント	5～6
4	学芸員実習・職場体験・インターンシップ	6～7
5	古代衣装貸出	7
6	ボランティアガイドの実施	7

(2) 令和6年度 考古博物館事業予定について

1	展示活動	8～9
2	学習会・講座など	9～10
3	イベント	10～11
4	学芸員実習・職場体験・インターンシップ	11
5	古代衣装貸出	11
6	ボランティアガイドの実施	11

(3) 考古博物館の利用状況について

1	利用者状況	12
2	常設展観覧者数過年度比較	13
3	学校関係利用状況	14～15
4	外国人利用者数	16

(4) その他

1	考古博物館来館者サービスの向上について (ミュージアムショップ商品開発支援、キャッシュレス決済導入)	17～18
2	国際文化交流について	
3	令和7年度特別展(案)について	

◇	山梨県附属機関の設置に関する条例等(抜粋)	19～22
---	-----------------------	-------

(2) 令和5年度 考古博物館事業実績について

1 展示活動

(1) 第40回特別展「星降る中部高地の縄文世界

－黒曜石ネットワークによる物流と人流－

会 期： 7月 8日(土)～ 9月 3日(日) 開催日数51日

会 場：当館

入館者：6,909人

概 要： 平成30年度に「星降る中部高地の縄文世界－数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に会う旅－」(長野県と共同申請)が日本遺産に認定され、山梨・長野両県における黒曜石を通じた物流と交流によって培われた我が国の縄文文化を代表する遺跡や土器・土偶といった文化財が評価されてきました。

長野県では黒曜石の鉱山(八ヶ岳)を背景にムラが造られ、交流を通じた造形美な土器や土偶が造られてきました。一方、山梨県では、採掘された黒曜石をブランド化し、物流の拠点として大きなムラが造られ、周辺地域の影響を受けながら独自に発達した優美な土器などが造られてきました。道具の材料としては、列島内で最大かつ良質な石材であり、黒曜石の交易ルートの発達と共に約五千年前に列島内で最も先進地域となりました。

展示では、山梨と長野県各地の日本遺産の構成文化財を比較しながら、「中部高地の縄文世界」の原像を探るとともに、いにしえから行われていた物流による交流の歴史的背景について考える機会としました。

特別巡回展『発掘された日本列島 2023』(山梨会場)

会 期： 9月16日(土)～10月29日(日) 開催日数41日

会 場：当館

入館者：5,404人

主 催：文化庁・山梨県立考古博物館全国新聞社事業協議会、山梨日日新聞社・対馬博物館

概 要： 平成7年度から開催され、今年度で29回目となります。マスコミを賑わせた全国各地の遺跡から発掘された最新の出土品とその成果をいち早く国民に成果を知っていただく全国規模の巡回展です。

展示資料について文化庁が監修したもので約500点を展示しています。展示では、埋蔵文化財の最新の調査成果に触れることにより、埋蔵文化財の保護・活用の意義の知識を深めると共に、地域の史跡を知り文化財保護と活用の両面に理解を深める機会とします。

(2) 企画展

① 春季企画展『御嶽昇仙峡国名勝指定100周年記念 クリスタルロード』

会 期： 4月15日(土)～ 6月11日(日) 開催日数51日

会 場：当館多目的室

入館者：5,328人

連携館：山梨ジュエリーミュージアム(研磨加工体験イベント)

概 要： 山梨の特産品である水晶利用の歴史をクローズアップし、旧石器・縄文時代の水晶加工遺跡や水晶製の石器をはじめ、古墳時代の装身具、現世標本に至るまでの3万年以上にわたる山梨の人々と水晶のかかわりを考古資料から

探っていきました。

- ② 令和5年度山の洲文化財交流展『発掘が語る地域交流-フォッサマグナがつなぐ新潟・長野・山梨・山梨・静岡』
会 期：12月 9日（土）～ 1月21日（日） 開催日数35日
会 場：当館多目的室
人 数：1,619人
概 要： 山の洲文化財交流事業の一環として、山梨・静岡・長野・新潟と合同で開催する交流展です。展示では、各県が誇るイチオシの文化財を巡回展示しながら、いにしえから多くの人や物が交流する交通の要衝として発展した様子を考古資料で紹介します。
- ③ 新年干支展『辰（タツ）』
会 期： 1月 2日（火）～ 1月28日（日） 開催日数20日
会 場：当館エントランスホール
人 数：991人
- ④ 『第21回わたしたちの研究室・研究成果展示会』
会 期： 2月10日（土）～ 3月 3日（日） 開催日数20日
会 場：当館多目的室
- ⑤ 『富士山ミニ展示』
会 期： 2月 3日（土）～ 2月25日（日） 開催日数20日
会 場：当館エントランスホール
- ⑥ 『風土記の丘望見展』
会 期： 2月23日（金）～ 3月31日（日） 開催日数34日
会 場：風土記の丘研修センターエントランスホール
- ⑦ 『山梨の遺跡発掘展2024』
会 期： 3月 9日（土）～ 4月 7日（日） 開催日数24日
会 場：当館多目的室
主 催：山梨県埋蔵文化財センター

2 学習会・講座など

(1) 考古学講座

今年度は「甲斐武田氏の終焉と天正壬午の戦い」をテーマに開催します。武田氏の興隆と終焉にとともに勃興した城を紹介しながら、最新の調査成果を踏まえ紹介する機会とします。

第1回12月10日（日） 「武田氏館跡の武田氏終焉前後」

甲府市教育委員会 鷹野 義郎 氏 参加者47人

第2回12月16日（土） 「新府城跡と武田氏終焉前後」

韮崎市教育委員会 閻間 俊明 氏 参加者43人

第3回 1月13日（土） 「甲府城築城時期に関する再考察」

東京外国語大学 吉田 ゆり子 氏 参加者55人

第4回 1月27日(土) 「天正壬午の乱前後の北杜市域」
北杜市教育委員会 渡邊 泰彦 氏 参加者54人

(2) 館長講座

高橋龍三郎館長による縄文時代研究の最前線をテーマとする講演会。縄文時代を専門とする館長が、最新の考古学の研究成果をわかりやすく解説します。

山梨の縄文後・晩期の祭祀や土器などに見られる特色について紹介します。

- 第1回 6月 3日(土) 「縄文時代の交易と地域間交流-黒曜石・水晶・ヒスイ-」
参加者96名
- 第2回 9月 2日(土) 「中部高地の土製耳飾り」
参加者88名
- 第3回 12月 9日(土) 「金生遺跡と石棒儀礼」
参加者106名
- 第4回 3月16日(土) 「富士山周辺の配石遺構」

(3) 特別展記念講演会・座談会

第40回特別展『星降る中部高地の縄文世界－黒曜石ネットワークによる物流と人流－』の開催を記念して、特別展への理解を深めることを目的に、講演と討議を行いました。

- ・日 時 8月20日(日)
- ・場 所 風土記の丘研修センター (ネット同時配信)
- ・基調講演
高橋館長 (日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の魅力)
- ・講演会
大竹 幸恵 氏 (日本考古学会副会長、長和町教育委員会)
一部・黒曜石鉱山と人々の暮らし
保坂 康夫 氏 (身延山大学)
二部・縄文時代の黒曜石の流通
栗島 義明 氏 (明治大学研究知財機構 特任教授)
三部・装身具の流通から見た中部高地
小野 正文 氏 (元山梨県埋蔵文化財センター所長)
四部・抽象文土器の展開
- ・座談会
野代 幸和(学芸課長)コーディネーター

参加者:253名(当日参加者) YouTube 視聴者約3,000名

(4) 特別巡回展リモート講演会

特別巡回展『発掘された日本列島2023』への理解を深めることを目的に、講演会を行いました。

- ・日 時 9月24日(土)
- ・講 師 文化庁文化財第二課 大澤 正吾 調査官

・参加者 93名

(5) ものづくり教室～チャレンジ博物館～（風土記の丘研修センター）

- 第1回 4月9日（日）「縄文時代の石製耳飾りづくり」
参加者：41名
- 第2回 5月21日（日）「大きな勾玉の首飾りづくり」
参加者：44名
- 第3回 6月18日（日）「紙すきでうちわづくり」
参加者：39名
- 第4回 7月16日（日）「縄文のかごづくり」
参加者：49名
- 第5回 8月13日（日）「縄文と弥生の土笛づくり」
参加者：54名
- 第6回 9月17日（日）「江戸時代の藍染め」
参加者：49名
- 第7回 10月8日（日）「弥生時代の石包丁づくり」
参加者：44人
- 第8回 11月12日（日）「縄文風陶器づくり」
参加者：40人
- 第9回 12月3日（日）「干支の縄文土鈴づくり」
参加者：43人
- 第10回 1月14日（日）・28日（日）「縄文土器づくり」
参加者：112人
- 第11回 2月18日（日）「縄文時代のサメの歯形のペンダントづくり」
- 第12回 3月10日（日）「青銅鏡風ミニチュア鏡のキーホルダーづくり」

(6) ものづくり教室～原始古代の技に学ぶ～（風土記の丘研修センター）

- 第1回 4月22日（土）・23日（日）「トンボ玉作り」
参加者：12名
- 第2回 5月20日（土）「黒曜石で石器作り」
参加者：6名
- 第3回 6月17日（土）「縄文の編み物作り」
参加者：13名
- 第4回 7月15日（土）「石製ペンダント作り」
参加者：9名
- 第5回 8月19日（土）・20日（日）「縄文クッキー作り」
参加者：24名
- 第6回 9月2日（土）「染め物作り」
参加者：10名
- 第7回 10月28日（土）「縄文風陶器作り」
参加者：11名
- 第8回 11月25日（土）「干支土鈴「辰」と泥メッコ作り」
参加者：8名
- 第9回 1月6日（土）・13日（土）・28日（日）「縄文土器作り」
参加者：51名

- 第10回 2月10日(土)・11日(日) 「青銅鏡形チョコレート作り」
第11回 3月 9日(土) 「青銅器作り」

3 イベント

- (1) 第34回風土記の丘こどもまつり(公園管理者と共催)
5月3日(水・祝)・4日(木・祝) 風土記の丘研修センターと周辺エリア
火起こし体験、狩猟体験や史跡ウォークラリーなど、考古学や風土記の丘に親しんでもらうため、毎年5月の連休期間中に開催しました。
参加者：5,286名
- (2) 考古博物館エントランスホールでのミニイベント
- ① 11月20日(月) 『県民の日イベント』
参加者：1,071名
 - ② 1月 2日(月)・3日(火) 『お正月イベント』 参加者：153名
 - ③ 2月23日(金・祝) 『富士山の日関連イベント』
 - ④ 3月 3日(日) 『考古博物館 de 春まつり』
- (3) 風土記の丘研修センターでのイベント(公園指定管理と共催)
- ① 7月 1日(土)～8月22日(火：旧暦の七夕)
『風土記の丘で七夕飾り』
参加者：145名
 - ② 7月 1日(土)・2日(日) 『山梨の七夕人形を作ろう』
参加者：30名
 - ③ 9月 2日(土) 『方形周溝墓で星を見る会』
参加者：39名
 - ④ 10月15日(日・祝) 『秋のふれあいまつり』(雨天中止)
 - ⑤ 10月29日(日) 『樹木と古墳のガイドツアー』
参加者：16名
 - ⑥ 11月23日(木・祝) 『落ち葉で焼きいも』
参加者：136名
 - ⑦ 1月 8日(月・祝) 『古代米でもちつき』
参加者：190名
- (4) 「夏休み自由研究プロジェクト」への参加
日 時：7月17日(月・祝)
会 場：アイメッセ山梨
参加者：5,455名
- (5) 第21回わたしたちの研究室表彰式・発表会
日 時：2月10日(土)
会 場：考古博物館エントランスホール
参加者：78名

(6) 縄文王国山梨

特別展に合わせて連携イベントを実施。

日 時：7月30日（日）

会 場：考古博物館エントランスホール

参加者：215名

(7) 原始・古代の技術体験学習（風土記の丘研修センター事業）

団体向けと少人数向けにそれぞれ実施します。（1月末時点）

① 火起こし体験 参加者：3,309名（無償）

② 勾玉作り 参加者：2,285名（有償）など

(8) 埋蔵文化財センターによる資料出張展示

① マチナカ博物館による外部出張展示を実施。

藤村記念館 開催日：8月12・13日（土・日）参加者：273名

史跡甲府城跡 開催日：9月17日（土）参加者：100名

金精軒葦崎店 開催日：11月19日（土）参加者：71名

② 出前授業等による外部貸出などを実施。

小中学校・高等学校・大学など

(9) 山の洲文化財交流展関連イベント

山の洲文化財交流展に伴いワークショップを実施（埋蔵文化財センター主催、考古博物館共催、静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課、山梨大学教育学部、駿台甲府高等学校茶道部協力）。

日 時：12月17日（日）

会 場：考古博物館エントランス

参加者：156名

(10) 観光・地域活性化に向けた取り組み

① 考古博物館と周辺施設（直売所・温泉等）との連携キャンペーン

② ガイドアプリ「AR古代望見 よみがえれ！甲斐風土記の丘」

③ 都市公園指定管理者とのイベント等連携強化

④ 日本遺産 星降る中部高地の縄文世界との連携事業の実施

⑤ 山の洲交流事業による中部四県との文化財交流事業の実施

4 学芸員実習・職場体験・インターンシップ

(1) 学芸員実習 7月27日（木）～8月6日（日）

東京学芸大学教育学部 1人

立命館大学文学部 1人

神奈川大学国際日本学部 1人

茨城大学人文社会学部 1人

(2) 職場体験 学校向け

5月18日（木）・19日（金）小菅村立小菅中学校 1人

6月 1日（木）・ 2日（金）甲斐市立玉幡中学校 3人

7月25日（火）・26日（水）甲府市立城南中学校 1人

8月 8日 (火)	甲府市立城南中学校	1人
8月17日 (木) ・ 18日 (金)	甲府市立城南中学校	1人
7月25日 (火) ・ 26日 (水)	甲府市立北東中学校	2人
	甲府市立上条中学校	3人
8月 8日 (火)	甲府市立上条中学校	1人
8月 9日 (水)	甲府市立上条中学校	1人
8月 9日 (水) ・ 10日 (木)	甲府市立北東中学校	2人
8月10日 (木)	甲府市立上条中学校	1人
8月11日 (金) ・ 12日 (土)	北杜市立甲陵中学校	1人
8月11日 (金)	昭和町立押原中学校	2人
8月15日 (火) ・ 16日 (水)	甲府市立北中学校	1人
	甲府市立南中学校	4人
8月16日 (水)	昭和町立押原中学校	2人
8月17日 (木) ・ 18日 (金)	北杜市立甲陵中学校	1人
	甲府市立富竹中学校	1人
	南アルプス市立楡形中学校	1人
8月19日 (土)	昭和町立押原中学校	4人
8月22日 (火) ・ 23日 (水)	甲府市立北東中学校	4人
8月23日 (水) ・ 24日 (木)	甲府市立北東中学校	4人

(3) インターンシップ

9月30日 (土)	山梨県立吉田高等学校	1人
-----------	------------	----

5 古代衣装貸出事業

文化庁の補助事業で制作した弥生、古墳、飛鳥時代の体験用衣装。

主に学校、団体向けに貸出。

4月20日 (木) ~ 5月20日 (土)	富士河口湖町立勝山小学校
5月19日 (金) ~ 6月19日 (月)	県立特別支援学校うぐいすの杜学園
6月 4日 (日) ~ 6月18日 (日)	早川町立早川北小学校
9月22日 (金) ~ 11月28日 (火)	中央市教育委員会
1月27日 (土) ~ 2月25日 (日)	北杜市立明野中学校

6 ボランティアガイドの実施

学校見学、団体見学等において実施。

(3) 令和6年度 考古博物館予定事業について

1 展示活動

(1) 第41回特別展「縄文時代の不思議な道具展」(仮称)

会 期： 9月28日(土)～11月24日(日) 開催日数50日

会 場：当館

概 要： 縄文時代にはミニチュアの土器や土製の石器、動物や植物の土製品など用途不明な不思議な道具が作られていました。これらは祈りやマツリのための道具、遊びの道具と考えられますが、その用途の多くはまだ解明されていないものがあります。縄文人が何を考え何に使おうとしたのか、モノの名前を付けるとしたらどんな名前がいいのか。縄文時代の子どもになったつもりで想像力をかきたたせ、縄文ファンタジーに誘うことをねらいとした企画展です。

(2) 企画展

① 春季企画展『重要文化財指定25周年記念 一の沢遺跡出土品展』

会 期： 4月20日(土)～6月16日(日) 開催日数51日

会 場：当館多目的室

概 要： 笛吹市一の沢遺跡出土の重要文化財指定品全てを25年ぶりに全品を一斉公開します。修復後の全品公開は初となります。中部高地に栄えた縄文時代中期の井戸尻式文化の代表的な資料から山梨の縄文資料の魅力に迫ります。

② 夏季企画展『呪(まじな)いの世界展』

会 期： 7月13日(土)～9月1日(日) 開催日数45日

会 場：当館多目的室

概 要： 呪(まじな)いという人々の祈りの世界を山梨県から発見された考古資料を通して紹介していきます。古来より自然災害や病気といった災いを克服していくために、人々はどんな道具を使ってきたのかを紹介していきます。

③ 新年干支展『巳(み)』

会 期： 1月2日(木)～1月26日(日) 開催日数17日

会 場：当館エントランスホール

④ 『第22回わたしたちの研究室・研究成果展示会』

会 期： 1月25日(土)～2月23日(日) 開催日数27日

会 場：当館多目的室

⑤ 『富士山ミニ展示』

会 期： 2月1日(土)～2月24日(日) 開催日数21日

会 場：当館エントランスホール

⑥ 『風土記の丘望見展』

会 期： 2月1日(土)～3月30日(日) 開催日数50日

会 場：風土記の丘研修センターエントランスホール

⑦ 『山梨の遺跡発掘展2025』

会 期： 3月 1日（土）～ 3月30日（日）

開催日数26日

会 場：当館多目的室

主 催：山梨県埋蔵文化財センター

2 学習会・講座など

(1) 考古学講座

今年度は「地域の魅力を考古学で語る」（仮）をテーマに開催します。県内の研究者を招き、笛吹市、南アルプス市、韮崎市、大月市、富士河口湖町域の著名な遺跡を取り上げ、地域の魅力を紹介する機会とします。

※オンライン配信と現地会場による併用開催。

11月から1月にかけて全4回。一の沢遺跡・岡銚子塚古墳・竜塚古墳（笛吹市）、重郎原・安道寺・殿林遺跡（甲州市）、大月・塩瀬下原遺跡（大月市）、本栖湖底遺跡、富士山信仰関連遺跡（富士河口湖町）など。

(2) 館長講座

高橋龍三郎館長による縄文時代研究の最前線をテーマとする講演会。縄文時代を専門とする館長が、最新の考古学の研究成果をわかりやすく解説します。

縄文時代に見られるマジカルな要素や特色について紹介します。

第1回 6月 2日（日） 「タイトル未定」

第2回 9月 1日（日） 「タイトル未定」

第3回 12月 8日（日） 「タイトル未定」

第4回 3月16日（日） 「タイトル未定」

(3) 特別展記念講演会

第41回特別展『縄文時代の不思議な道具展』の開催を記念して、講演いただきます。

会期中に基調講演会と座談会を実施して、特別展への理解を深める。

会期中に4回を予定。

・場 所 風土記の丘研修センター（ネット同時配信予定）

・基調講演

高橋館長「縄文トーマムと動物形土製品」

・講演会

中部大学 長田友也「御物石器と精神性」

岐阜県埋蔵文化財センター 三島誠「縄文の精神世界について」（仮）

佐倉市教育委員会 小倉和重「人頭形土製品とその周辺」（仮）

(7) ものづくり教室～チャレンジ博物館～（風土記の丘研修センター）

第1回 4月28日（日） 「古墳時代の勾玉の首飾づくり」

第2回 5月26日（日） 「縄文時代の女神いっちゃんをつくろう」

第3回 6月 9日（日） 「戦国時代の紙漉きでうちわづくり」

第4回 7月21日（日） 「縄文と弥生の土笛づくり」

- 第5回 8月18日(日) 「縄文時代の火起こし器を作って火を起こそう」
- 第6回 9月15日(日) 「江戸時代の藍染め」
- 第7回 10月6日(日) 「弥生時代の石包丁づくり」
- 第8回 11月10日(日) 「縄文時代の石製耳飾のペンダントづくり」
- 第9回 12月8日(日) 「縄文と干支の土鈴づくり」
- 第10回 1月12日(日)・2月2日(日) 「縄文土器をつくって焼き上げよう」
- 第11回 2月16日(日) 「縄文時代のかごづくり」
- 第12回 3月2日(日) 「縄文風陶器づくり」

(8) ものづくり教室 ～原始古代の技に学ぶ～ (風土記の丘研修センター)

- 第1回 4月20日(土)・21日(日) 「トンボ玉作り」
- 第2回 5月18日(土) 「縄文風陶器作り」
- 第3回 6月8日(土)・15日(土) 「一の沢遺跡の土偶作り」
- 第4回 7月20日(土) 「草木染め体験」
- 第5回 8月24日(土) 「青銅器作り～ミニミニ銅鐸～」
- 第6回 9月21日(土) 「網代編みのカゴ作り」
- 第7回 10月26日(土) 「干支(巳)の土鈴とミニチュア土器作り」
- 第8回 11月16日(土)・17日(日)・12月7日(土) 「小形彩文土器作り」
- 第9回 1月11日(土)・18日(土)・2月2日(日) 「縄文土器作り」
- 第10回 2月8日(土)・9日(日) 「青銅鏡形チョコレート作り」
- 第11回 3月8日(土) 「古代遺物の石けん作り」

3 イベント

(1) 第35回風土記の丘こどもまつり (公園管理者と共催)

5月3日(金・祝)・4日(土・祝) 風土記の丘研修センターと周辺エリア
火起こし体験、狩猟体験や史跡ウォークラリーなど、考古学や風土記の丘に親
しんでもらうため、毎年5月の連休期間中に開催を予定しています。

(2) 考古博物館エントランスホールでのミニイベント

- ① 11月20日(水) 『県民の日イベント』
- ② 1月2日(木)・3日(金) 『お正月イベント』
- ③ 2月23日(日・祝) 『富士山の日関連イベント』
- ④ 3月9日(日) 『考古博物館 de 春まつり』

(3) 風土記の丘研修センターでのイベント (公園指定管理と共催)

- ① 6月29日(木)～8月10日(木) 『風土記の丘で七夕飾り』
- ② 6月29日(木)・30日(金) 『山梨の七夕人形を作ろう』
- ③ 9月7日(土) 『方形周溝墓で星を見る会』
- ④ 10月15日(日・祝) 『秋のふれあいまつり』
- ⑤ 10月29日(日) 『樹木と古墳のガイドツアー』

- ⑥ 11月23日(木・祝) 『落ち葉で焼きいも』
- ⑦ 1月13日(月・祝) 『古代米でもちつき』

- (4) 「夏休み自由研究プロジェクト」への参加
アイメッセ山梨にて開催、参加予定
- (5) 第22回わたしたちの研究室表彰式・発表会
日時：2月10日(土)
会場：考古博物館エントランスホール
- (6) 縄文王国山梨
特別展に合わせて連携イベントを検討中
- (7) 原始・古代の技術体験学習(風土記の丘研修センター事業)
団体向けと少人数向けにそれぞれ実施します。
 - ① 火起こし体験
 - ② 勾玉作り など
- (8) 埋蔵文化財センターによる縄文土器出張展示
 - ① マチナカ博物館による外部出張展示を予定
- (9) 観光・地域活性化に向けた取り組み
 - ① 考古博物館と周辺施設(直売所・温泉等)との連携事業
 - ② ガイドアプリ「AR古代望見 よみがえれ!甲斐風土記の丘」
 - ③ 都市公園指定管理者とのイベント等連携強化

4 学芸員実習・職場体験・インターンシップ

- (1) 学芸員実習
- (2) 職場体験 学校向け
- (3) インターンシップ

5 古代衣装貸出事業

文化庁の補助事業で制作した弥生、古墳、飛鳥時代の体験用衣装。
主に学校、団体向けに貸出予定。

6 ボランティアガイドの実施

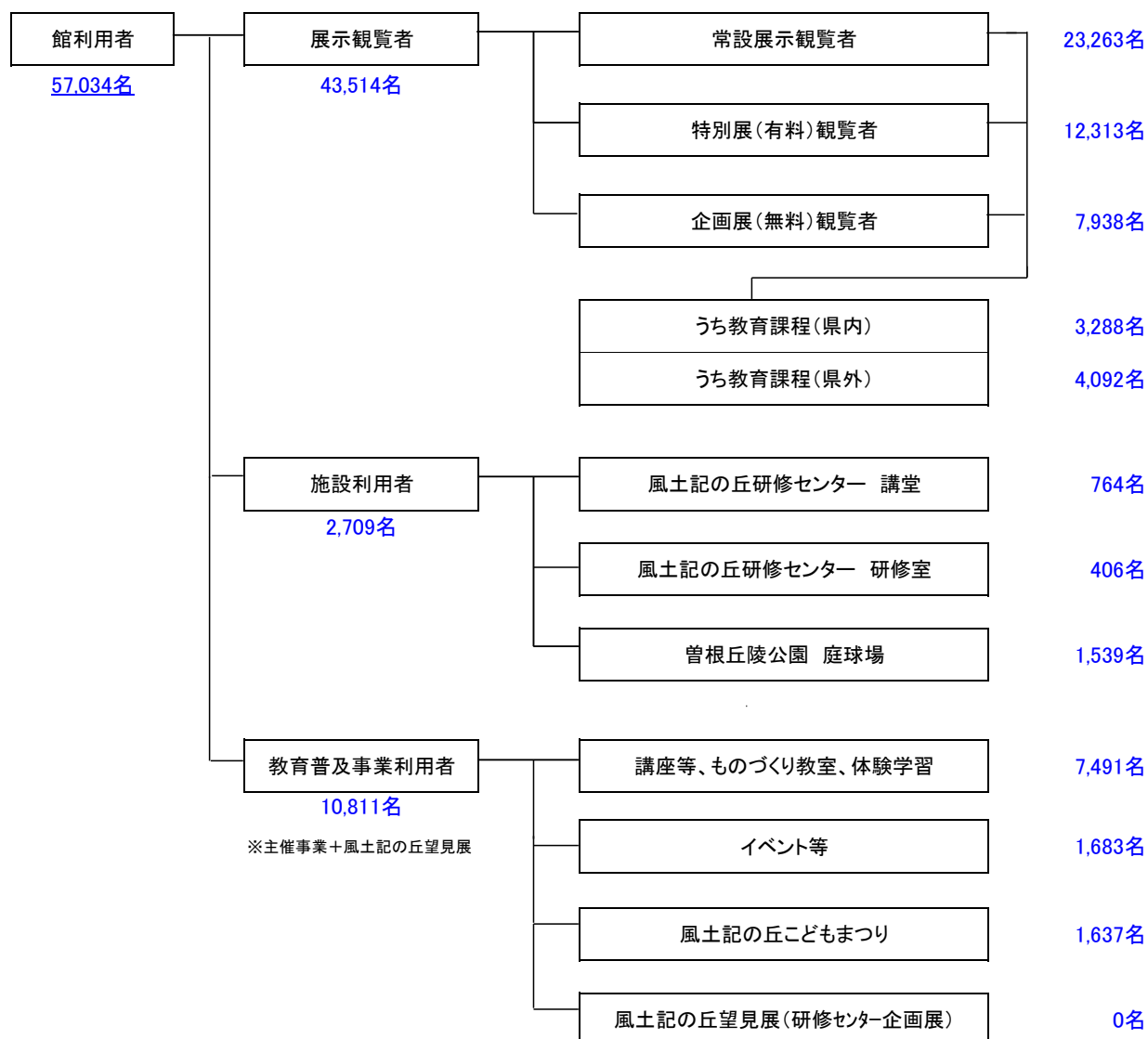
学校見学、団体見学等において実施予定。

(3) 考古博物館の利用状況について

1 令和5年度 考古博物館における「利用者」の状況

令和6年1月末現在

- 考古博物館の利用者とは、考古博物館の施設、提供するサービスを利用した者および考古博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。
- ここに示す利用者数は、令和6年1月末までの実績である。

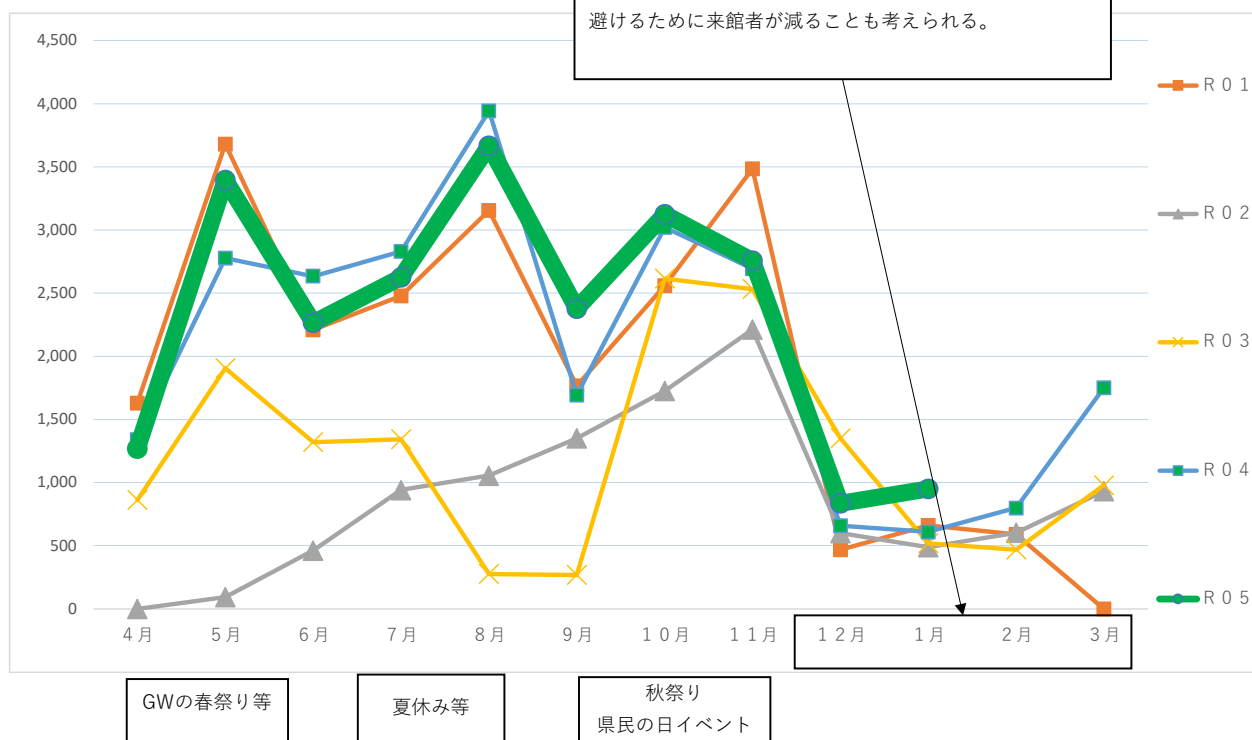


2 常設展観覧者数過年度比較

単位：人

常設展 観覧者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	9月末 まで	合計
R 0 1	1,630	3,679	2,209	2,477	3,154	1,766	2,558	3,484	468	662	591	0	14,915	22,678
R 0 2	0	93	462	941	1,055	1,350	1,726	2,212	600	488	602	931	3,901	10,460
R 0 3	860	1,905	1,320	1,343	276	268	2,615	2,531	1,350	519	469	979	5,972	14,435
R 0 4	1,341	2,776	2,634	2,830	3,943	1,693	3,021	2,694	659	609	799	1,751	15,217	24,750
R 0 5	1,270	3,396	2,266	2,625	3,666	2,376	3,124	2,756	835	949			23,263	23,263

全ての年齢層で観覧者数が減少する。
特に小中高校生の減少が著しい。
冬場は課外授業をしない学校が多い。
12月から3月は授業数が少ないため課外授業に割く時間が無い。また、冬場はインフルエンザや胃腸炎等の感染症を避けるために来館者が減ることも考えられる。



3 学校関係利用状況

令和6年1月末現在

県内＋県外 利用の状況	R5年度 (1月末)		R4年度 (3月末)		R3年度 (3月末)	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
施設利用 (常設展)	106件	5,317人	130件	7,034人	104件	5,275人
小学校	80件	3,708人	99件	4,748人	84件	3,965人
中学校	21件	942人	24件	1,294人	17件	677人
高校	5件	152人	3件	123人	2件	75人
その他 (児相など)	0件	0人	4件	184人	1件	24人
引率者	－	515人	－	685人	－	534人
職場体験	22件	42人	5件	9人	0件	0人
教材貸出 (古代衣装)	9件	－	10件	－	2件	－
合　　計	137件	5,359人	145件	7,043人	106件	5,275人

3-1 学校関係利用状況

		人口	R5 (1月末時点)		R4		R3			
		R5.12末	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数		
国中	1	甲府市	177,850	14	669	17	690	20	993	
	4	山梨市	32,802	4	238	1	26	2	77	
	6	韭崎市	27,464	3	178	4	185	2	95	
	7	南アルプス市	70,242	3	63	2	63	5	146	
	8	北杜市	44,749	3	57	7	190	0	0	
	9	甲斐市	75,125	10	433	5	270	6	253	
	10	笛吹市	65,742	0	0	2	111	3	269	
	12	甲州市	29,313	0	0	6	247	1	27	
	13	中央市	28,498	7	334	4	205	4	173	
	14	市川三郷町	14,405	5	56	10	220	1	16	
	15	早川町	871	1	11	0	0	1	25	
	16	身延町	9,897	2	63	2	34	2	29	
	17	南部町	6,850	2	27	0	0	1	49	
	18	富士川町	13,899	1	77	1	102	2	70	
	19	昭和町	20,472	1	29	1	29	1	2	
	郡内	2	富士吉田市	45,970	1	17	0	0	3	146
		3	都留市	28,121	3	134	3	205	5	329
		5	大月市	21,414	0	0	2	71	2	32
		11	上野原市	21,162	1	23	0	0	1	19
20		道志村	1,527	1	20	0	0	1	18	
21		西桂町	3,954	0	0	1	37	1	42	
22		忍野村	9,427	0	0	1	113	1	101	
23		山中湖村	5,490	2	32	2	31	2	45	
24		鳴沢村	3,036	0	0	0	0	1	32	
25		富士河口湖町	26,120	8	259	4	122	7	226	
26	小菅村	629	0	0	0	0	1	14		
27	丹波山村	511	0	0	1	8	0	0		
県外	28	東京都		33	2,564	44	3,425	18	1,423	
	29	静岡県		1	33	10	650	9	594	
	30	長野県		0	0	0	0	1	30	
合計			106	5,317	130	7,034	104	5,275		

(参考) 県内利用者のうち国中・郡内比率

	人口	R5 (12月末時点)		R4		R3	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
国中地域	618,179	56	2,235	62	2,372	51	2,224
	(79%)	(78%)	(82%)	(82%)	(80%)	(67%)	(69%)
郡内地域	167,361	16	485	14	587	25	1,004
	(21%)	(22%)	(18%)	(18%)	(20%)	(33%)	(31%)
県外		34	2,597	54	4,075	28	2,047
合計	785,540	106	5,317	130	7,034	104	5,275

4 外国人利用者数

令和元年度	中国	韓国	東南アジア	欧米	その他	合計	備考
4月から6月	13	3	16	15	25	72	春季企画展 4/20～6/16
7月～9月	2	10	6	11	5	34	夏季企画展 7/13～8/25
10月～12月	37	0	2	14	70	123	特別展開催(縄文文化の頂点)10/2～11/24 冬季企画展 12/7～
1月～3月	0	7	0	6	1	14	冬季企画展 ～1/26 臨時休館 2/28～
合計	52	20	24	46	101	243	中国21.4% 韓国8.2% アジア9.9% 欧米18.9% 他41.6%

令和2年度	中国	韓国	東南アジア	欧米	その他	合計	備考
4月から6月	0	0	0	4	0	4	臨時休館 ～5/21
7月～9月	5	0	4	2	2	13	夏季企画展 7/18～8/23 秋季企画展 9/8～
10月～12月	0	1	9	7	0	17	秋季企画展 ～11/23 冬季企画展 12/5～
1月～3月	0	2	2	4	5	13	冬季企画展 ～1/24 わたしたちの研究室 2/13～3/7 山梨の遺跡展 3/13～
合計	5	3	15	17	7	47	中国10.6% 韓国6.4% アジア31.9% 欧米36.2% 他14.9%

令和3年度	中国	韓国	東南アジア	欧米	その他	合計	備考
4月から6月	3			3	7	13	山梨の遺跡展 ～4/11 春季企画展 4/18～6/13
7月～9月	1			2	2	5	夏季企画展 7/17～8/22 臨時休館 8/8～9/12 特別展開催(甲府城のすべて)9/30～
10月～12月			1	4		5	特別展開催 ～11/23 冬季企画展 12/11～
1月～3月							冬季企画展 ～1/23 わたしたちの研究室 2/12～3/6 山梨の遺跡展 3/12～
合計	4	0	1	9	9	23	中国17.4% 韓国0% アジア4.4% 欧米39.1% 他39.1%

令和4年度	中国	韓国	東南アジア	欧米	その他	合計	備考
4月から6月	5	0	2	15	1	23	山梨の遺跡展 ～4/10 春季企画展 4/16～6/12
7月～9月	13	8	7	16	0	44	山の洲文化財交流展 7/16から8/28 特別展開催(甲斐の勇者)9/28～
10月～12月	20	1	4	14	0	39	特別展開催 ～11/23 冬季企画展 12/10～
1月～3月	17	3	8	7	0	35	冬季企画展 ～1/22 わたしたちの研究室 2/11～3/5 山梨の遺跡展
合計	55	12	21	52	1	141	中国37.9% 韓国9.5% アジア12.0% 欧米39.6% 他1.0%

令和6年1月末日時点

令和5年度	中国	韓国	東南アジア	欧米	その他	合計	備考
4月から6月	13	0	11	22	19	65	山梨の遺跡展 ～4/9 春季企画展 4/15～6/11
7月～9月	18	4	7	21	1	51	特別展開催(山梨の縄文世界)7/8～9/3 特別巡回展開催(発掘された日本列島)9/16～
10月～12月	30	2	4	25	4	65	特別巡回展開催(発掘された日本列島)～10/29 山の洲文化財交流展12/9～
1月～3月	5	0	0	9	2	16	山の洲文化財交流展～1/21 わたしたちの研究室 2/10～3/3 山梨の遺跡展 3/9～
合計	66	6	22	77	26	197	中国26.7% 韓国3.5% アジア15.5% 欧米37.1% 他17.2%

・令和5年度の外国人利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響前である令和元年度の水準に戻ってきている。(1月末日時点)

(4) その他

1 考古博物館来館者サービスの向上について

(1) ミュージアムショップ商品開発支援について

○山梨縄文モチーフ陶器

陶芸家の加藤睦夫氏が当館所蔵の土器をイメージして制作した陶器「縄文想碗」を昨年6月から販売している。

また当館協力員でもあり陶芸家の北村正仁氏が当館所蔵の土器をイメージして制作した陶器を昨年9月から販売している。



縄文想碗



北村氏陶器

○いっちゃん土偶モチーフの箸置き・ブローチ

長野県富士見町の雲歩窯が制作したいっちゃん土偶モチーフの箸置き・ブローチを昨年6月から販売している。



箸置き



ブローチ

○西嶋和紙の懐紙・一筆箋

伝統工芸品の西嶋和紙に縄文展開図を施した懐紙や一筆箋を、有限会社山十製紙と共同開発中である。なお開発過程のプロトタイプ品を、令和6年2月11日(日)に開催された山梨県埋蔵文化財センターシンポジウムで試験販売しており、令和6年7月頃に販売予定である。



懐紙サンプル

○印伝の小物入れ・名刺入れ

伝統工芸品の印伝に縄文文様をアレンジした小物入れや名刺入れを、株式会社印傳屋上原勇七と共同開発中である。現在はデザイン等をつめている状況で、令和6年7月頃に販売予定である。

(2) キャッシュレス決済の導入について

○目的

これまで、現金支払に限定してきた入館料について、多様な支払方法に対応できる環境を整え、インバウンドも含めた来館者の利便性を向上させる。

○利用可能な決済

【クレジットカード】 VISA、MasterCard、銀聯

【電子マネー】 交通系 IC、iD、WAON

【コード決済】 PayPay、auPay、d払い、メルペイ、楽天ペイ、
Alipay、WechatPay、銀聯 pay

○導入年月

令和6年2月

山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則(抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、山梨県附属機関の設置に関する条例の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(補欠委員の任期)

第3条 委員に欠員を生じた場合における補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 条例第5条第1項の規定により、附属機関に会長及び副会長一人を置く。

(定足数の特例)

第5条 条例第六条第二項の規則で定める場合は、次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議について、同表の定足数欄に掲げる数の委員が出席しなければ開くことができない場合とする。

附属機関	山梨県考古博物館協議会
定足数	過半数

(定例会及び臨時会)

第12条 次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議は、定例会及び臨時会とし、定例会の開催回数は、同表の開催回数欄に掲げるとおりとする。

附属機関	山梨県考古博物館協議会
開催回数	年2回

2 前項に規定する臨時会は、必要に応じて開催する。

(庶務)

第13条 附属機関の庶務は、次の表の所属欄に掲げる所属において処理する。

附属機関	山梨県考古博物館協議会
所属	考古博物館

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が当該附属機関に諮って定める。

※ 参考

博物館法(抜粋)

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

山梨県附属機関の設置に関する条例(抜粋)

(趣旨)

第1条 この条例は、法令又は他の条例に別に定めのあるものを除くほか、地方自治法第138条の4第3項に規定する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

(附属機関の設置及び担当事務)

第2条 執行機関の附属機関として、別表第一に掲げる機関を設置し、その担任する事務は、同表の担当事務欄に掲げるとおりとする。

別表第一 知事の附属機関(簡略)

山梨県立美術館協議会
山梨県考古博物館協議会
山梨県地方産業教育審議会
山梨県文学館協議会

(組織)

第4条 附属機関は、別表第1、別表第2及び別表第3の委員の定数欄に掲げる数の委員で組織する。

2 委員は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の要件欄に掲げる者のうちから、執行機関が任命し、又は委嘱する。

3 委員の任期は、別表第1、別表第2及び別表第3の委員の任期欄に掲げるとおりとする。

(会長等)

第5条 附属機関に、規則で定めるところにより、会長又は委員長(以下「会長」と総称する。)及び副会長又は副委員長(以下「副会長」と総称する。)を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、附属機関を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故あるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 附属機関の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、規則で定める場合を除くほか、委員の2分の1以上が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、附属機関の担当事務、組織及び運営等に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第1(第2条、第4条関係)

2 知事の附属機関

附属機関	山梨県考古博物館協議会
担当事務	博物館法第20条第2項の規定による山梨県立考古博物館の運営に関する事項の調査審議及び意見の具申に関する事務
委員の定数	15人以内
委員の要件	1 学校教育の関係者 2 社会教育の関係者 3 家庭教育の向上に資する活動を行う者 4 学識経験のある者
委員の任期	2年

山梨県考古博物館協議会運営要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、博物館法第20条、山梨県附属機関の設置に関する条例（以下「条例」という。）及び山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則（以下「規則」という。）に定める山梨県考古博物館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 協議会は、山梨県立考古博物館（以下「館」という。）の運営に関し、館長の諮問に応じ、中・長期的な課題等について調査・審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

(組織)

第3条 協議会を構成する委員は、条例第4条別表第1の定めに従い15人以内とする。

2 前項15人のうち2人は公募委員とし、公募委員選考委員会要領により開催される公募委員選考委員会で選考する。

3 協議会を構成する委員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者
- (5) 観光分野の関係者

(委員の任期等)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員の辞職等により新たに委員を補充したときは、その委員の任期は前委員の残任期間とする。

2 委員の再任は妨げないが、原則一度限りとする。

(会長等)

第5条 規則第4条の規定により、協議会に会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は委員の互選によりこれを定める。

3 会長及び副会長の任期は、2年とする。

4 会長及び副会長の再任は、妨げないものとする。

5 会長は会務を総理し、協議会を代表する。

6 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

7 会長及び副会長は事務局が作成する議事録を確認し、必要に応じ修正等の指示を行うものとする。

(会議)

第6条 協議会は会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、必要に応じて書面またはオンラインによる開催とすることができる。

3 協議会は、毎年2回開催する。ただし、会長が必要と認めるときは、この限りではない。

4 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

5 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(傍聴)

第7条 協議会は、会長の許可を得た者が傍聴することができる。

2 協議会の傍聴に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(議事録)

第8条 協議会の議事録はこれを作成し、公開する。

(事務局)

第9条 協議会の事務局は、館に置く。

2 事務局に、事務局長及び事務局員若干名を置く。

3 事務局長は、館長をもって充てる。

(雑則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、本協議会の運営等に関して必要な事項は、会長がこれを定める。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。